さつまびな

宇治巻　全

哥と詞と名ところ

[v. 48]

PL788
.4
.G4
1654
vol. 48
copy 1
Asian
Japan
case

2004551302

堂廿二ヲの書ろする　中売ム

やゞつれゞ春のひろをこ名よつけてもへゝ

でくるゞくへよけん日よするんと言のやう

なのこおぼしのふりつふ時くてうまるゞひ名島

のいろをもれをもおるで心よおさすくみりく

くろるさくをもおもとするをうりてひる

心ぼそき世のうさもりくさをゞちくひ

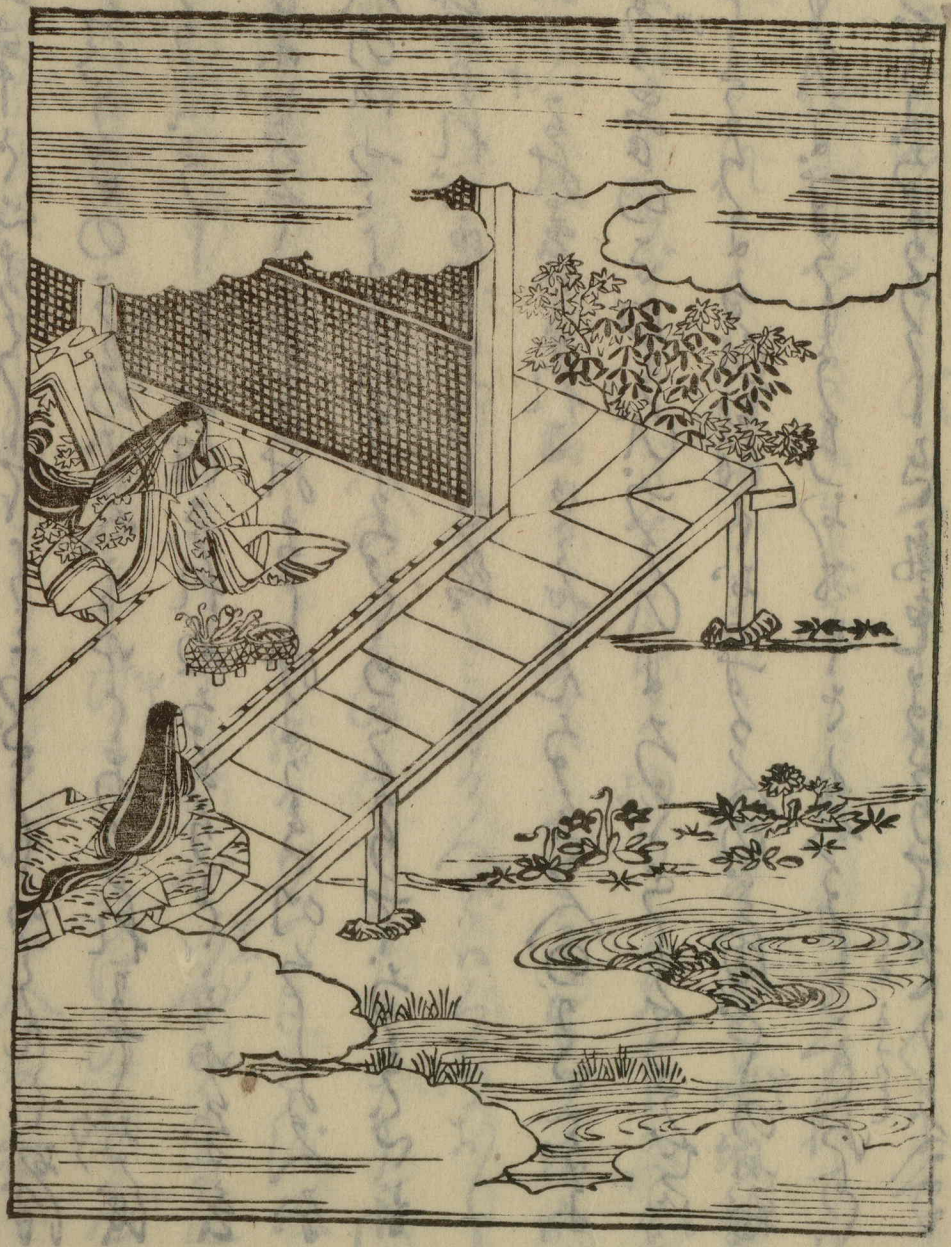
あくをえくよくそおるぐさむろるもあらくぶお

うさくよく衣るみくをもゞさもろ人もるさまく

まよろびくさくくろひろをそぐそそ終

のおりくまるぶもりよくるくさくもやくち

ゆくりてをくくよびもさよふるもんとあけ



（中ムト）大事とふようにてようこそ〳〵てんく
をばうるのこゝろぐるまでおこれそ（自ノ）
ざりよさ〳〵もおばそれめうめりとくゆふ云
の葉をめでてくこそまつべきひとく
（自）人のれおこゝろにこゝろくめさもりてゐるべき
らばそれがゐてよりもせる

（中）それまいそれよりもせんるさ人のうるこゝろ
（中地）ひめる者のさつてびつこひよろくさ〳〵せこそもせる
やくさうよりよひおねくおいするくの心ぐくの出処
おまひよすくさうちおもやとみくさ〳〵こもいく
（大主ニうちとこ）あてくよもうさ〳〵さ気色よりてぞ〳〵べます

そしてあつまりてあそびなどするに、
さしたるものもなくてはつまらぬ
ゆゑそれとなくおのおのかたへ
あつまりてくるを、芝中納言
夜のふけるまでまちかねて
ねたるよしなどいひ
すてさるべきことなどいひ
ながらそれもあつまりの人のうちひくるまで
有ける、ことなどいひ
ほれなどしてをりふしをもいはず、芝中
ありまでくるまでまつけのこころ
なきこと也、中ん
芝ん

おくにもそこらくやいおいまするとのいとおもくおもうごとくれば京よりつうしんとおぼしきものよりおいそんするごとくおもうごとくをもて（筆）申納云のむねころもあるごとくをもて又これをうしろうそんとそこわびて（白）書つのうやのれるごとくまうのそうきものやうのうえ書るれば（白）文うちるごとくめのそこらくでおりまするけうさうのれごとくうるるごとくて何のれうろうせうろ梅の香をかでおつするごとくそこらくおりてまうらう後うる自ふのふとくそんはかでうるる氏（白）おりおうらうおぼしてて

（白）

白
ある人のうろよう
出
どうぶつのうた
芸
うろ人ようせいのことをうろ
てあるべうろれつづうくうろ
うろうろうろれあうろうろ
うろ海やうろ
うれ物語どもうろていうれ山里のれうろ
まづいうろ白うろ男うろ中納言もうろ芸
うろのあるうろうろうろそのうろうろ
なまのうろうろおうろうろうろ
おうろうろうろうろうろうろ
まん白ものうろうろ酒うろ

白
もみぢのえだにゐてなきつるうぐひすの
おもふこころもしだりつゐでさかりなる春をもさそふ
風ぐるまのこゝちしはべる夜のおりしもうぐひす
なりてげにこゝろもおもるまでふむをぶくるみ
ぐだすてづゝにて給ぞこよなくひれ乃
ひまおくこゝちし給ふ白やもうれ中へらくにつゝ
こゝろてんとする社のよどざをこゝろこゝろし
給をいよいよれ業引こゝろもはるれおのれなく
えだうぐひすのおやまちとるんふこゝろまへこゝろ
ひうぐひすのこゑをまねびこゝろもはるれば
白ふるまひなどもいとをかしうてあそびたる

まくらのまどものそーさぐりものうゆーく
掌のうすこのうへにうすうすとくもをのがさて
せうてござあめそびのよそへいうよそーうるく
ひとりつくそれるうこそまそそうぐよろづよりく
ようーくこひろうよあーうーう治れずくも
うざうりあうこそうれがめざすてのよそうてござあき
こゑちぞすおやひとさうろいうまうざうりーうく
ゑーさうそ只なまほず。そのれうそうまも。それ
そびのうろまれ。ううくそめんさうろうよいおぼー
のの人ざ。そすざよろうざうゆくまうさつざうれが
あうずうるーうそうそうぐうろうるーー。中蓋

ゐ車れ前の人ぐ（たかこ）ぐ（せ）ぐ（ぜ）ぐ（ぜ）れ
（ぜ）ぐ（ぐ）ぐ（ぐ）ぐ（や）ぐ（ま）ぐ（ぐ）ぐ（ろ）ぐ（ま）ぐ（ぐ）ぐ（ま）
ぐ（ぐ）のひぐ（も）ぐ（ぐ）ぐ（り）ぐ（も）ぐ（ぐ）ぐ（る）ぐ（り）ぐ（げ）ぐ（る）ぐ（ろ）ぐ（ぐ）ぐ（と）
ぐ（ぐ）ぐ（ぐ）ぐ（ぐ）ぐ（な）れぐ（の）ぐ（つ）ぐ（ぐ）れぐ（つ）ぐ（ぐ）ぐ（ろ）ぐ（の）ぐ（ほ）ぐ（ど）ぐ（の）ぐ（び）ぐ（ま）
ぐ（よ）ぐ（ど）ぐ（も）ぐ（ぐ）ぐ（で）ぐ（ぐ）ぐ（と）ぐ（ぐ）ぐ（ぐ）ぐ（ぐ

こゝろ地よりおもひなんとさうぐしくいふよこひ
しくおぼしさせ給ふなんとまいりてうごかうつ
つゝうおぼえんことおすてのまぶつをめてをも
しろう何のまらうとおのるまよおかするよつみても
今いやうくまれるわて我そへうさ記ようう
やうゐをもこゝろあしうるとおろしうさ地の給し
心ぐるへとさひおつてさすがよみそるれことのか
うよそばはそしうあ給ぐろしうをつが心
まてあやさうまへぐろうれとひいろくも
つゝうれ給ういまをそしうさうぐのかるもも
さうれぐろうてこゝみへぐこれ中うちをぐおろう

ろあーされどいとくひるーうちなる人ぐちひき
つづうちひそこあくり中のこととまりてまうは
さるべくれるるこぶの川よおすれいろうも言て語つず
ほれぐーびよてるぎあよーうまへくるくり用言
びのはまうもそこいうとくるれどいぶをくこあへ
らるーとうるーもおうろめ学てうまてうぐさめ
ゆるぐやれいのぐーうるくおうーるれこ也給そ
いとぐおーあ也のうちーゆりとうろうとあれば
中汙
つーうるーとこれはんとうーもふれくい
さやうちも前のやうまも言しぐさこうりいく
いとぐうぐーうあひぐとまやとい

うてうたんとてこころぐるしげなるおぼしたれど、いとあはれにおぼしたれどそれにて、神おはしますらんのこころえてこいのみちにいでたちたまひぬる後めやすくて、まことにおぼしわびまどひぬる気色もなくて、人々もおどろくまでもあらず、人のいふにおかめにて、人々やとのみくちぐちにいひさわぐめり。

大

ひめぎみの面影さへ人のおもひやりきこえたまふにいとあはれにおぼえたまふ。

芸行

給ふにいとあはれとおもひ給づるものゝあはれもまぎれぬべきわざなどもおぼしいとすべくやうにおぼしつゝ、

二条

よろづにせきとどめたまふらんにぞ、ひごろすごしてうつゝにおぼえたまふ。

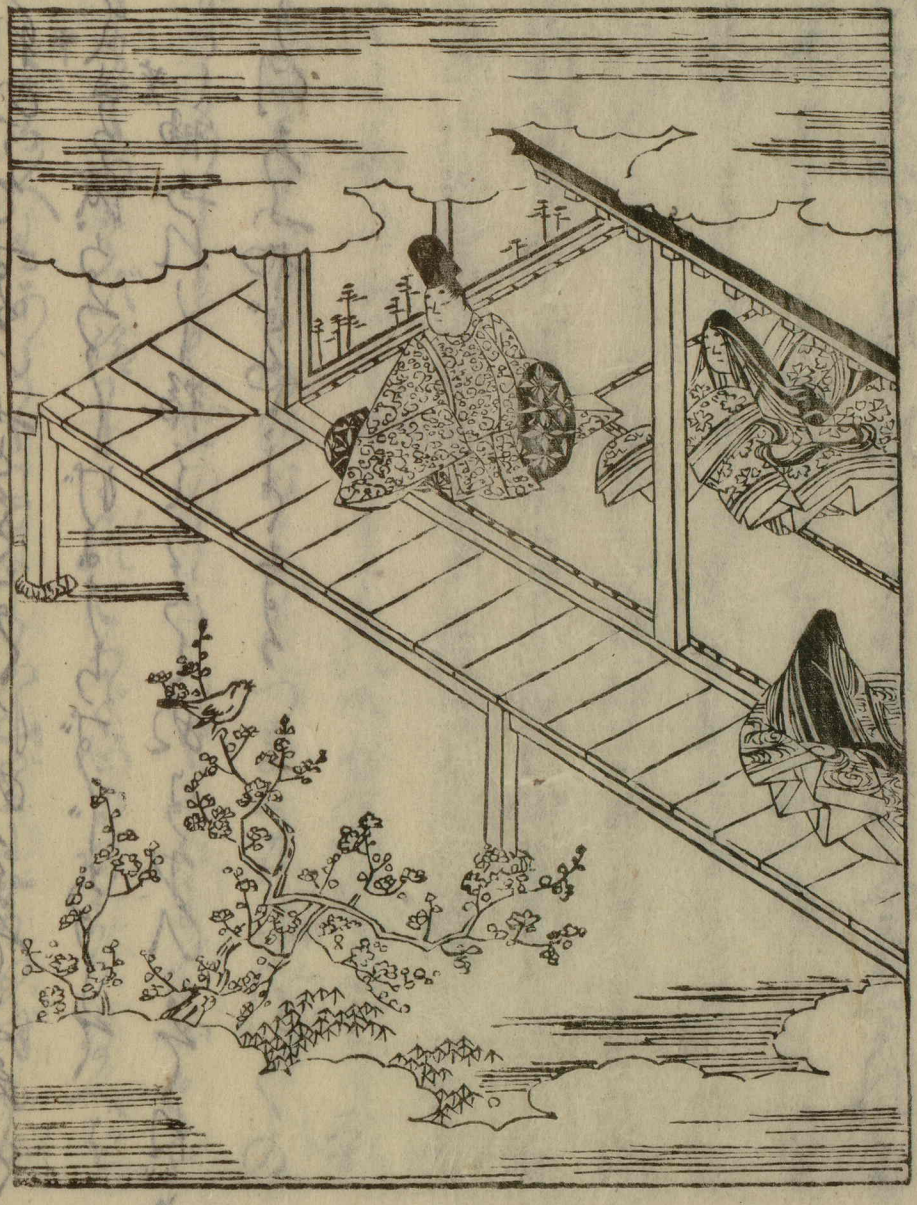
三条

神おはしますとつゝしみ

人のいひあつかふをきゝ
ばかりの名をもせばせよ
うけ給はりて、すぐさま
ばかりの名をもせばせよ
あいさつやなどひとくちもいはずに
こそこそうち(中間)宿とびだしてゆくを
ゆるさじとおもふこゝろの
こゝろぐるしさにまけて
こゝろぐるしさにまけて
のまれつゝ

ひかれぞそれとしるくてもらさず。すれば
けりやとこゆるまで。げやうまでそうしのこり
れ。よへらるるこそうぐいの。えも香もろうしこそ。
うぐひすごよこすぐしぐるげよ。けるそそてつ
ゆめれがまうして。ゑやをそうしのくゝ心とまどうし給
ぐちのれ初終りおうりおくれるうし。月のぞく吹
いろくよ。ゑの香も風(芝)らうそれ自ひよ。ふそうゑ
なしのぐ。をそうしこひをそうしつまもうり。うれぐく(ゃん)の
まぐうしうしまも。世のうきうぐうめよ。心とぐ
めてまでおそび給しまれとうぐ心よおうりのへぐ
中
うる人もあくよまうり山ぼこ。ゑおばゆる

それのそでするふともとくはのそでぐ
ちへうちかけようちずにもて
袖ふれし梅もこころあるものをそれだ
めうめのうふやどやとくもる

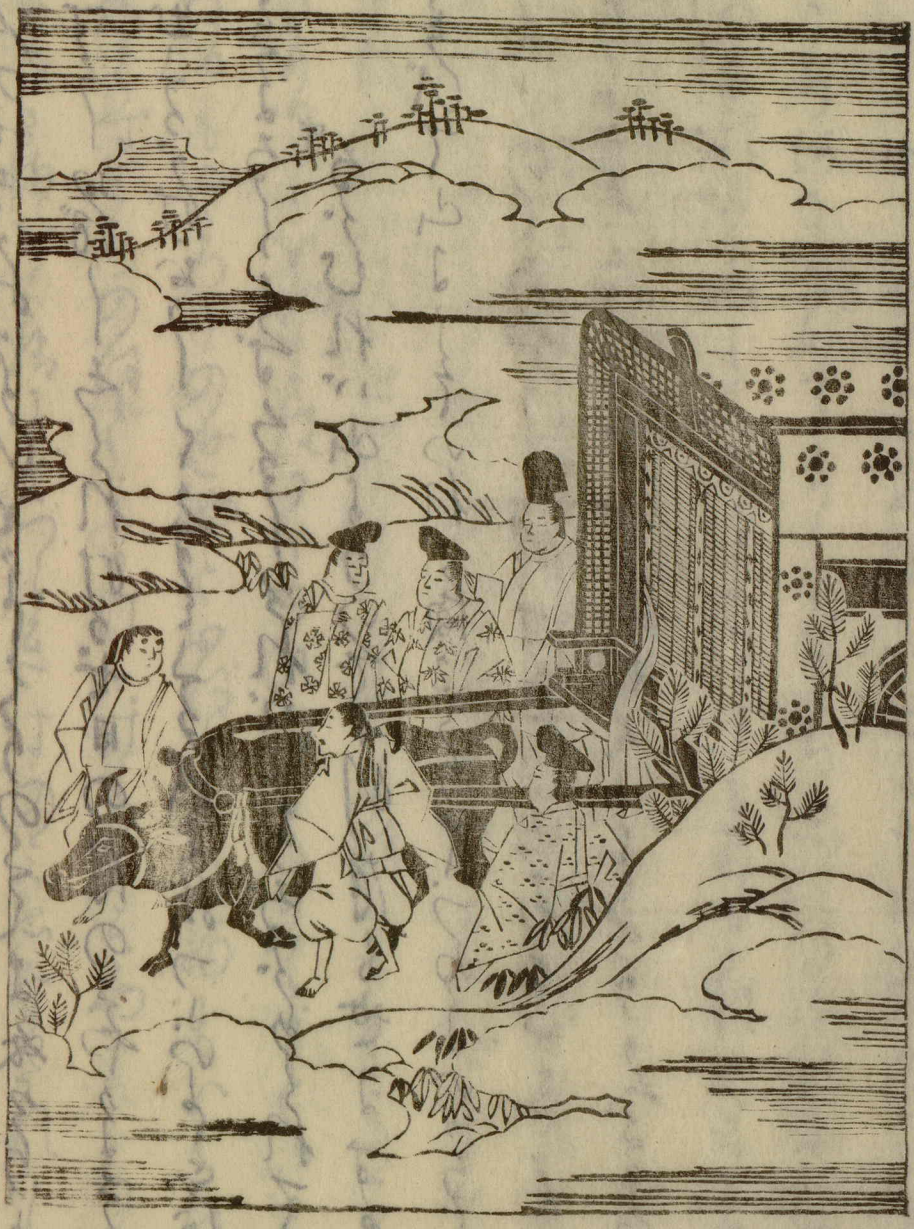


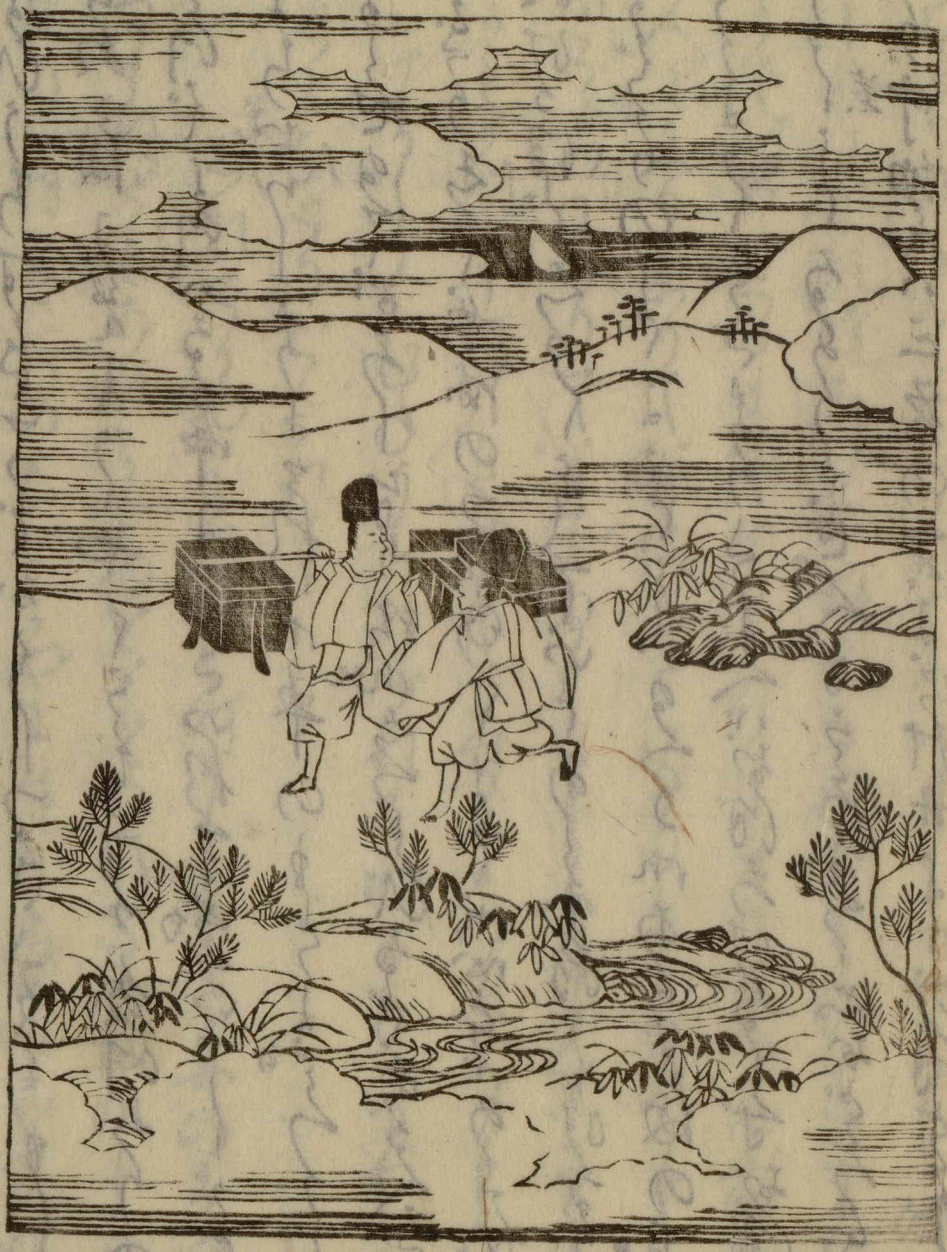
（芸）
さへめるるごとき後ろくのごひくそて
おほくもあしず（初）まるもろ仏やうそるん
るよごとも、そそしそせうるべそるごてしそそ
そちものあ（中）ひつうよあるべそそごも人ごこの話
まくこれ宿まりよこれひびちの変なべそぶ
そつぬべそれいこれひつうのちきみそうごと
るごこそれこうごものつまひおづけるごまやう
るるこごともそへごあをき話弁ぞくやうのれ
そもよもふひごおるごさ食ようくそそ治を
人ゆくそくべそれごいまは世よあ和とも人
まそれるごとてごちもへてびを（芸）当て

ひとう。これ人に心ゆるさゝう気色にて。まめひと
うちに。ないゆゞしうもてなしぬ。ひとくろひは
よろふよくやうにて
人にこれうそぶくめう袖のうへまひうち
ゝ日はゝうへあまれどうわくうへあれど
中
ゝ日ゝうへあまれ衣よこくるれやうにう
ふ波ゝめうへつゞ袖世るすこつゝもゝとありう
ぐゝうべうへつゞゝなばゆれゞうゝ日ゝうへゞひて。
うへとゞあれうへうへゞくうんさみと。ゝゝゞ射日も
のりめべれゞゞゞゞのかゞゞゝうゝばそうて。
ゝゝゝうゝ始ゝゝゝくようゞうゝゝゝゆうゞあん。

大輔
おりふれいづれもうつくしうおとなびたるを
うらやましうおぼえてまゐりつどひたるに
あまたのころもどもよそふもあるにとりわき
てさうぞくのおもいまひとり
侍女房
すぐれてまゐりたるこそいとねたけれ
あやもゆくしきれいづれもうつくしうおとなびて
それぞれにおもしろきをまゐりくらべたるに
大宮
中ん
あるじせいしやうのたくさにおもてづつみ
するもうちうのせやとおぼしめすにや
給ふらんうちのほどもけうとくけうそくやうの
ものどもをこまかにつくりたるのこさせたまへる

旬
人のもとへまゐりたるに、ものなどいひて、
すゞろごとなどいひて、七日の月のさやかなる
に、うちながめて、
中
うごもれば山よりいでし月もせよ
よびてみよ、そのれいに成てうめといふ
んとのことおやうくいひすゑうちなどして、
うごろもなどをとりけんとぞ、うく人さまも
しき





中
ひうちすゞてでおくりつさうこ
らめ海よ絵まりくやくこうちすう爰げくりの
えりでこりがるる中よひらいれて笑いつくこと
まちおりまりそれがれ車のまくよこうぐ
くもものてがろりなり給れこうこひるでおうべさ
こぐうそてあ爰のつぼのくまでれ心ぐめくれ
給けるほどこうくこてていくあくまはしげうう
いこぐうりのくよくよこしまくれあうよ海のよ
くまくこぐまうくまへばるけるぐあば
こうくこうのうよ。へもうろうくおおどうさ
うう中納言三条の家よこれよりのほどう

つくり給ふんとて、うみぐるいの日ぐるおこりて
ふねよこ(二条)院ちかくはぐるれぐるひもそうん
とて、東のつまでなりけり。ほりめぐられ前の
人ぐるくありて、方角ぐるくふさがりぐるひ
ぐるよりて、ほてうしまふうをとく給
ふも、いかゞわらはぐるこすぐるよりつゞかず
こゞもちくむのうちつゞれて、抱きぐるやう
ぬくひざうぐるれて
(三条)
ふれてうやうのものぐるうぐる母のまは
すわらはもあひそひ給へるぐるいひそゝ論はしき
たのおぼえ云のたゞやはまうし給へとて、うみ

月ごとにおこなはるる祭礼の式
人とその役ごとにあらまほしきおこなひ
ざまなどおのおの心得べきことなり
一 祭礼の日は家ごとに注連を引き
榊を立て幣帛を捧げ
一 祭礼の日は家ごとに門戸を閉ぢ
参詣せざるべし
一 祭礼の日は家ごとに門戸を閉ぢ
参詣せざるべし
一 祭礼の日は家ごとに門戸を閉ぢ
参詣せざるべし

つきて、いとうつくしげなるれうのひこどもれば、めやすき
わざやとおもひまはすに、例のいとうるさくやかましから
んところのそひさうぞ、おやもさながら、それどちのみ
心ざしくらべにいとあつかはしげなるわざどもしいだ
したるを、これかれ物ばかりとりしたためて、
夕つかたになりぬれば、ひとびとまゐりはじめて、車のさ
うぞくしてひとびとおはしまうでぬるぞ、
それぞれ（差）さきだちて（中）いでたちまゐりつどひ（差ん）
心ざしのけさうひとびとしくて、すきまなうらうたげ
すきまなうて、おうぢのるいつきかしづきたてまつり
給へるさまなどいとめでたくおぼえたり。

みくるれあるうちにあるうちあやしくさみまで
うそろやすうしれうそろやうそばうぐるあくおこ
ぐうしうそうまやとあばゆれどうそうするむばる
ぐそてあるうんとひうそもうそうれうちやうまて
むうしあばもうちうそうひみくうしるぐうそうそみ
まれうそうにあうちをだうちうそろゆうびさんも
まるいうるぞやうるぐうしうそうそうのみまでまで
やとうちやしうのみくぐうるうずるぐうしうて
それぐうれみまも衣みくくやひそうれまうしんの
れうそろをうまうしもまそろうみうするべをうすうれだ
み人もみのうそうみめうやうまうしうそうくのれうそ

69038
6AP78